

水防災意識社会再構築に向けた取組

～市町村担当者向け気象防災ワークショップの実施～

令和元年5月

宮崎地方気象台

宮崎県河川課、砂防課、危機管理課

大規模氾濫等減災協議会 令和元年度の取組

○「気象防災WSプログラム」実践

自治体担当者様を対象として学習プログラムです。

気象防災WS(防災対応ワークショップ)は、内閣府の「避難勧告等に関するガイドライン」を基本に地元気象台から発表される防災気象情報に基づく地方公共団体の防災対応をワークショップ形式により疑似体験していただくものです。

このワークショップを通じて、地方公共団体の防災担当者が、各種の防災気象情報を適切に理解し、有効に活用するとともに、体制の強化や避難勧告の発令のタイミングなどに関する検討を行い、判断のポイントを学んでいただくことによって防災対応力の向上を目指しています。

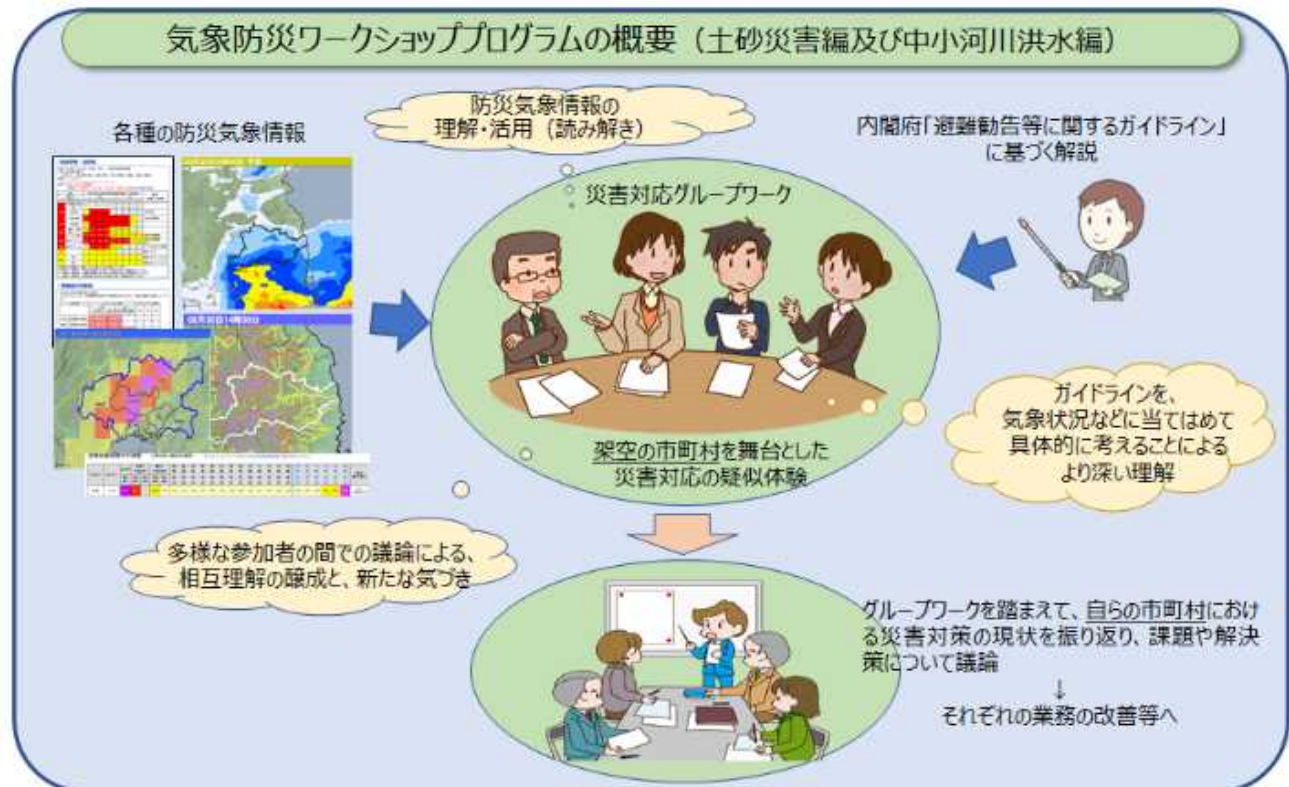
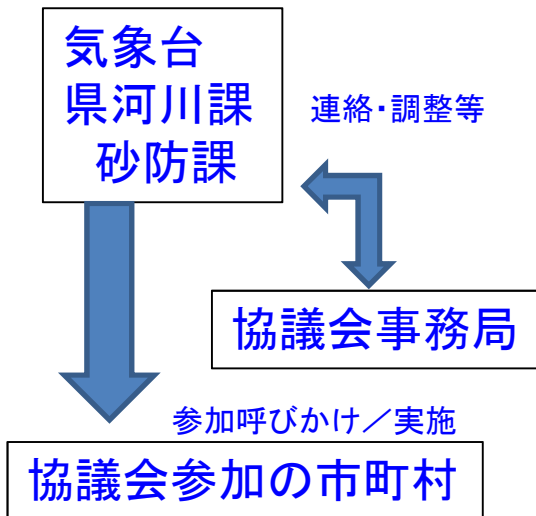
【提案】

協議会としての取組に位置付けて、本年度内最低1回の開催を目標に取組む(気象防災WSに関する事務は、気象台で行う)。

実施は、県河川課、砂防課と連携して行う。

対象は協議会内の市町村担当者等

※概要は別添参照



自治体担当者向け防災対応訓練プログラム

～災害リスクを防災気象情報から読み解く力をつける～

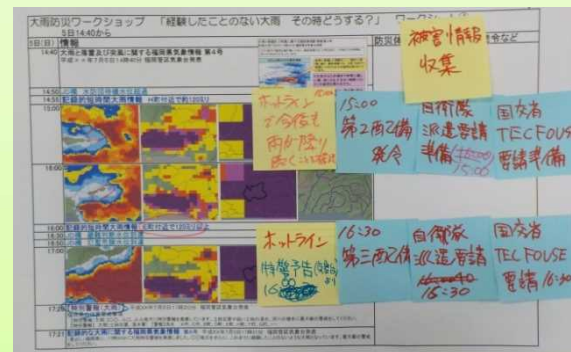
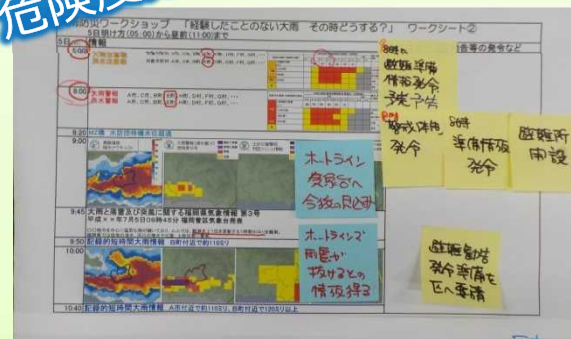
自治体担当者向け防災対応訓練プログラム（防災対応ワークショップ）は、緊急時に危険度分布図等を活用した避難勧告等の発令を客観的に判断できるよう、平時に地域の災害リスクと防災気象情報から危険度を知る知識をグループで考え、読み解く力を身につける学習プログラム。

危険度分布の利活用促進！

- ・時間:1～2時間
- ・人数:1班：3～6名
- ・スタッフ:説明者 + 2班に1名程度 + 記録・タイムキーパー等



ワークショップの様子（解説と発表）



各ステージの防災対応（発表資料抜粋）

訓練プログラムのポイント

【全体の流れ】

- ワークショップ全体の流れの説明
- レクチャー
グループワークで使う情報の説明
- ルール説明
- グループワークの役決め
 - ・リーダー、記録係、発表者、くじ係を決める。
出された意見をワークシートに記録する。
くじでどこの町の防災担当者になるか決める。
各班ごとに最後に発表する。
- 各ステージごとに説明
限られた情報で意見を出し合い、どのような
防災対応をとるのか考えてもらう。
- 発表
- まとめ（振り返り）

シナリオに沿ったワークシートの作成

- ①防災メール、警報級の可能性、気象情報
大雨による災害への心構えや初動対応人員の予定確認
や確保など
- ②注意報、警報、水位到達情報など
要配慮者施設への連絡、避難所開設準備や
「避難準備情報・高齢者等避難開始」発令など
- ③土砂災害警戒情報、記録的短時間大雨情
報など
避難勧告や避難指示の発令など
- ④特別警報
特別警報の周知と避難勧告等の発令地域の確認・追加
など

※実施時間によりステージの数など調整

遅くとも薄い紫で
判断を！

